1994 年 2 月 28 日　第 3 種郵便物許可　2023 年 6 月 15 日発行　TSK 通巻 2888 号

TSK

仙台ダルクニュースレター

Drug Addiction Rehabilitation Center

2023 年　6 月号

編集＜仙台市指定グループホーム・仙台ダルクチェルキオ作業所＞仙台ダルク
〒980-0011 仙台市青葉区上杉 2-1-26　URL http://sendai-darc.org/
TEL 022-261-5341 FAX 022-261-5340　Mail s-darc@jasmine.ocn.ne.jp

～四位一体回復セミナー～

私はかねてからアディクションの問題は、縦割りでは限界があると考えてきた。アルコールも含め薬物問題は、違法合法の線引きがかなり回復を妨げている。だが、真の問題は「人生がダメになるかならないか」が大切なのであり、そこに視点をあてながら活動してきた。薬物問題はヒロポンの時代から罪とされ、意思と根性でなんとか…。その結果、昨年度も再犯率は 66.1%、つまりだいたい 3 人に 2 人はずっと使い続けている現状だとすれば、司法と、治療という医療のサポート、借金、離婚問題等の経済的な福祉の問題を縦割りではなく、斜めのラインを模索しながら今後も活動を続けていきたい。そこに、ダルクも関わることで、四位一体となります。今回、2018 年以来 2 度目ですが「四位一体回復セミナー」と題してそれぞれ現場で活躍する皆さんにメッセージをいただきたいと思います。特に行政、教育、医療の方々に来ていただければと思い、平日金曜日の午後といたしました。奮って奮ってご参加していただけますようよろしくお願いいたします。

ちなみに、斜めのラインの模索として、宮城県では仙台保護観察所主体で、下記の団体グループのネットワークが組まれ、月 1 回の割合で会議を開き続けています。

＜薬物依存症地域支援ネットワーク協議会＞

仙台保護観察　NA 仙台グループ　アロー萌木　東北会病院　仙台弁護士会
宮城東華会　宮城県保健福祉部薬務課　宮城県精神保健福祉センター
仙台市精神保健福祉総合センター　東北厚生局麻薬取締部　仙台矯正管区
宮城県警刑事部組織犯罪対策局銃器薬物対策課
宮城刑務所　福島刑務支所　東北少年院　青葉女子学園　仙台少年鑑別所
仙台地方検察庁　東北地方更生保護委員会　仙台ダルク

（今後は…福祉の枠で区役所の生活保護課等にも関わっていただきたいと思っています♡）

仙台ダルク　ツトム

1994年2月28日　第3種郵便物許可　2023年6月15日発行　TSK通巻2888号

仙台ダルク主催　　宮城県依存症対策総合支援助成事業

薬物依存

四位一体

回復セミナー

Vol.2

2023年8月4日(金)

12:30開場／13:00～16:00

仙台市シルバーセンター
6階　第2研修室
（〒980-0013 仙台市青葉区花京院1丁目3番2号 022-215-3191）

基調講演「そもそもアディクションとは？」

東北会病院 副看護部長 森 和治 氏

シンポジウム「薬物依存に関する地域連携」

シンポジスト

①宮城県精神保健福祉センター 所長 小原 聡子 氏

②東北会病院 副看護部長 森 和治 氏

③仙台保護観察所 統括保護観察官 伊藤 裕一 氏

④仙台ダルク サブディレクター 野村 一史

コーディネーター

東北地方更生保護委員会 調整調査官 下野 博史 氏

申込不要・参加無料

問合先 仙台ダルク

後援 仙台保護観察所　022-261-5341

経験者はかく語りき by ケンイチ

こんにちは。依存症のケンイチです。私は現在２度目のダルク入寮中で、おかげさまで、入寮して２年３か月の間、クリーンが続いています。今まで何度かニュースレターの体験談を書かせていただきましたが、今回は先行く仲間からの助言の元､｢薬物と出会う前の自分｣に焦点を当てて棚卸しをしてみようと思います。

私は 1984 年に東京に生まれ、15 歳まで神奈川県にある実家にて両親と、３つ年上の姉と、私を含めて４人家族の長男として育ちました。私の姉は、スポーツも勉強も私とは比較にならない程優秀で、スキーの大会に出ればトロフィーを持って帰り、作文コンクールに応募すれば賞を受賞して表彰されるなど、頭が良くて要領もよく、明るくて勝ち気で物怖じしない子でした。一方私は姉とは真逆で、気が小さく臆病で、何をやっても不器用な子供でした。サッカーを習えば試合には全く出られずに、友達に「センターベンチ」と揶揄されたり、スキーの大会ではコースアウトして失格になったり、勉強も苦手で英語以外は５段階評価でオール２に近いような成績だったと思います。（1 は不登校等、そもそも授業や試験を受けていない生徒が相対評価で取る成績なので実質授業を受けた中で私は、ほぼ最下位に近かったかもしれません。）ちなみに私が、気が弱くて何をやってもうだつが上がらなかったのは、思い返せば私が幼稚園の頃から今に至っても概ね変わっていないように思います。私は自分より遥かに出来の良い姉の事を、現在も尊敬して慕っていますが、強烈な劣等感も抱いていて、成人してから姉から叱られたり、喧嘩をした事はほぼ皆無ですが、自分の人生が姉とは対照的に、「優秀」とは無縁な事実に対して不甲斐ないと思っていて、今は会って顔を合わせるのが後ろめたく感じます。私の家族は、全員気さくで冗談や笑いも絶えず、私を可愛がってくれましたし、私もその血を引いて割と明るくて楽観的なところもあるものの、私以外全員が優秀であり、いわゆる「エリート志向」の部分には私だけが家族にフィットしていなかったとも思います。

経験者はかく語りき by ケンイチ

母は、教員免許を持っていて、実家でケーキ教室を営んでおり、父は零細企業を経営しており、2 人共教育熱心でしたが、私は幼いころから学校では毎日のように忘れ物をしていて、宿題もやらず、提出物も出さずに、授業中も殆ど集中できずに、前途の通り勉強が出来ない子でした。友達は一応何人かはいましたが、今思い返してみると、どこに行っても誰と過ごしていても、捉えどころのない違和感と、この世界にはいつもどこか馴染めていなかったように思います。
家族にも友達にも、自分の意見を強く主張できずに、嫌われて見捨てられる恐怖や、劣等感や、全てにおいてみんなと同じようには出来ない不安が常に私を支配してきました。同時に、まったく相反するようですが、私には根拠のない自信や高慢さがあり、どこか世の中を見下していたりもします。私にとっての「あるべき理想の自分」と「現実」とが極端に乖離していき、人との関わりも上手にできずに生きづらくなり、結果あらゆるアディクションを人生の節々で誘発してきたのだと今は思っています。

私の幼少期から培われた生きづらさは、38 歳になった現在も変わることなく私を司っています。しかし、生きづらくて苦しい時でも、その苦しみから逃れるために薬物使用や飲酒等の破滅的な手段を取らずに、幸せになるためのクリーンな生き方を仲間達と共に現在も模索しています。私は、いつか本当に回復できる日が来るのかと自分自身に懐疑的になる事もあります。自信はありませんが、それでも仲間から離れずにプログラムにしがみついていれば、未来は私なりに少し開けるのかもしれません。希望を捨てずに、腐る事なく前向きに回復を目指していきたいと思っております。ありがとうございました。

1994 年 2 月 28 日　第 3 種郵便物許可　2023 年 6 月 15 日発行　TSK 通巻 2888 号

今後の予定　2023 年 8 月まで

6月23日（金）・・・青葉学院短期大学現代英語科　講演
6月24日（土）・・・薬物依存回復支援者（DARS）養成セミナー　ブルートを偲んで
6月28日（水）・・・宮城刑務所メッセージ
6月29日（木）・・・アディクションフォーラム実行委員会
6月30日（金）・・・仙台保護観察所ネットワーク会議
7月　3日（月）・・・石巻市立住吉中学校　講演
7月　6日（木）・・・宮城県精神保健福祉センタープログラム（NICE）
7月12日（水）・・・仙台ダルクグループ理事会総会
7月12日（水）・・・仙台二華高等学校　講演
7月13日（木）・・・塩釜高等学校　講演
7月19日（水）・・・ハームリダクション勉強会
7月19日（水）・・・宮城刑務所薬害教育プログラム
7月22日（土）・・・第 3 回仙台保護観察所長杯　観察所 VS ダルク　ソフトボール大会
7月26日（水）～28日（金）・・・青森ダルク合同キャンプ
7月28日（金）・・・仙台保護観察所ネットワーク会議
7月30日（日）・・・茨城ダルクフォーラム
8月　4日（金）・・・薬物依存四位一体回復セミナー　Vol.2

せんだい家族会のご案内

同じ問題を抱える家族の方へ、 あなた自身の回復と成長のために
家族会ミーティングに参加してみませんか。

2022年7月2日【日】 10:00～15:00 仙台市民活動サポートセンター 仙台市青葉区一番町4-1-3 会費：1000円 東北会病院副看護部長 森　和浩　氏	2022年7月18日【火】 19:00～20:30 仙台ダルク 仙台市青葉区上杉2-1-26 会費：寄付による
2022年8月6日【日】 10:00～15:00 仙台市民活動サポートセンター 仙台市青葉区一番町4-1-3 会費：1000円 東北会病院ソーシャルワーカー 鈴木　俊博 氏	2022年8月15日【火】 19:00～20:30 仙台ダルク 仙台市青葉区上杉2-1-26 会費：寄付による

1994年2月28日　第3種郵便物許可　2023年6月15日発行　TSK通巻2888号

献金・献品を賜りました皆様方へ心より感謝申し上げます。
恐れ入りますが敬称を省略いたします。（2023年2月～6月分）
※ニュースレター発送簡略化の為、郵便振替用紙は全員に同封いたします。
尚、匿名希望の方は振込用紙にお書き添えください。

安藤敏樹　伊藤修子　吉田祐一　駒木進　横田意美子　松村孝子
佐藤智子　鈴木静子　武者傳太郎　石橋亜記子　斎藤トシ子　遠藤克子
稲葉一十三　吉原美菜子　ティーチャー　満勝寺　盛岡地区保護司会
くすりのおおくま　善き牧者修道院　その他匿名の皆様方

編集後記

器が好きだ。一方で料理はほとんどしてこなかった。自分が作るものが禍々しいという思い込みが長らくあったからだ。無精のただの言い訳だが、その観念は確かにあって、この文章、もっと突き詰めれば、仕事や社会生活や果ては人生そのものもできれば見たくない。呪いのようなものだが、加齢とさまざまな取り組みによって緩和されてきたのが救いだ。

たとえば、賞味期限間近の半額で買った豆腐を、古伊万里なます皿にのせて味わうことに喜びを発見した。なんとも贅沢ではないか。初期伊万里のような高価なものではなく、生活雑器レベルのものではあるけれど、数百年の時を超えて何かの縁でお気に入りとなった器だと思うと、自我の小ささに気づき安らかになる。他人や社会から自我の抑制を強いられるのは明確な暴力だが、真に自ら望むとき、これは救われる。

器の疵を愛でることができるようになってきた。ある器は口縁部が一部欠けている。それを金継ぎで直すこともできるだろう。しかしながら、そのままにしておくのも景色、味の類ではないか。ありのまま。完品だけが全てではない。これは貧乏人である私の言い訳だけれども、あながち強がりでもない。人の至らなさにいちいち腹を立てても仕様もないので、この気付きを敷衍している。うまくゆくときもあれば、今一つのときもある。

お気に入りの器を見つけたとき、とても幸せだ。集まった器たちに囲まれていると、この世もそんなに悪くないと思う。仲間になった器たちの真贋はあまり気にしない。気に入ったのは事実だから。そうか、人を器に換えているわけか。私らしい。人だと面倒だからね。器でできれば、人でもできるだろう。気が向いた時にでもやってみればいい。

迷彩？いいえ、かりゆし

編集者　仙台ダルク
〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-1-26
TEL　022-261-5341 FAX　022-261-5340
URL　http://sendai-darc.org/
Mail s-darc@jasmine.ocn.ne.jp
発行所　東北障害者団体定期刊行物協会
〒980-0874 仙台市青葉区角五郎1-12-6
頒価　100円